

2026年2月16日



空き家を活用した“次世代ロボティクスとともに挑戦できる暮らし”

「長寿チャレンジハウス」を国立長寿医療研究センターと共同開発

～2月20日(金)記者向け内覧会を開催～

サンヨーホームズ株式会社(代表取締役社長:松岡久志 本社:大阪市西区)は、国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター(理事長:荒井秀典 所在地:愛知県大府市)との共同研究により、次世代の高齢者支援ロボティクスを実生活へ導入するための新たな実証拠点「長寿チャレンジハウス」を国立長寿医療研究センターにほど近い住宅地内に開設いたしました。「長寿チャレンジハウス」とは、家庭内で多様な支援ロボットを活用し、高齢者一人ひとりが日々の生活に挑戦(チャレンジ)しやすい環境にて、生き生きと暮らすことで、健康長寿を実現するための未来型住環境を示すコンセプトです。

今後、日本の社会課題である空き家問題、高齢者の独居・単独世帯の増加、介護人手不足を支える新しい住まいづくりを発信してまいります。



写真1:長寿チャレンジハウス全景

■ 背景 ①:高齢社会の深化とロボティクスへの期待

日本では急速な超高齢社会の進展により、移乗支援ロボットや見守りセンサ、移動支援モビリティなど、高齢者の生活を支えるロボット技術の社会的ニーズが急速に高まっています。2050年までには、誰もがいつでも、どこでも、ロボットを活用できる「人とロボットが共生する社会」の到来が期待されています。国立長寿医療研究センターでは、この未来を見据え、同センター内健康長寿支援ロボットセンターのリビングラボ環境において様々な生活支援ロボットを活用し、ロボット導入により生活活動に“心理的安心感”が生まれること、その安心感が自己効力感を向上し、個々の挑戦を後押しできることを実証されました。こうした知見を実際の生活空間に展開するためには、ロボットの改良だけでなく、住宅そのものをロボットフレンドリーに再設計する発想が必要です。

■ 背景 ②:空き家を未来住宅へリノベーション

日本の住宅地では空き家率が上昇し、地域の安全、コミュニティの希薄化、老朽化など社会課題が顕在化しています。本取り組みでは、空き家を活用し、断熱・耐震性能の向上、水廻り刷新などを行うとともに、1)間取りの最適化、2)福祉用具・ロボット移動動線の設計、3)懸架型ロボット(転倒の際の衝撃を緩和する:写真2)を使用を前提とした天井・壁の補強、4)センサの設置が可能な環境整備、などを行い、「ロボットを使いやすい家」へ包括的にリノベーションする全国初の試みを実現しました。



曲線レール(玄関-寝室-トイレ-キッチン)



XYレール(LDK空間全面)



写真2:サンヨーホームズ「寄り添いロボット(転倒衝撃緩和ロボット)」周回レール仕様

■ コンセプト ①:産学官の協働による実証拠点づくり

本開発はサンヨーホームズ株式会社と国立長寿医療研究センターとの共同研究により進められ、同センター内健康長寿支援ロボットセンターのリビングラボ(生活支援実証室・ロボット実証空間)で検証された以下のような多様なロボティクス技術を、実際の生活環境へ展開できる拠点として整備しました。

- 移乗・移動支援、着衣・脱衣支援ロボット
- コミュニケーションロボット
- 多機能見守りセンサ など

すでにサンヨーホームズ株式会社以外にもロボットメーカー、建築メーカー、センシング企業、エンターテインメント事業者など多数の企業が参画し、生活支援・医療・介護分野にわたる実装に向けた共創が加速しています。



上下動式(シンク・コンロ:別々に稼働)



エクササイズ一居間



HUG-トイレ



HUG-浴室



振動ベッド

写真3:生活支援ロボット装備

■ コンセプト ②:多様なステークホルダーがともに創る「未来の暮らし」

本取り組みでは、国立長寿医療研究センターが中心となりサンヨーホームズ株式会社も協力し、自治体、地域住民、医療・介護スタッフ、企業研究者など、多様な関係者と共に創り、先端技術の体験、使用シナリオの評価、改善点のフィードバックを継続的に行う、共進化型の実証プラットフォームとしての運用を目指します。特に、センシング企業との連携により、活動量、歩行、睡眠、生活活動など、さまざまなライフログを高精度に取得し、生活変容の可視化やロボット介入がもたらす効果の定量的評価にも取り組みます。また、国立長寿医療研究センター病院とのデータ連携を進めることで、取得したライフログを活用した遠隔医療や遠隔リハビリテーションの実現にも貢献します。

最終的には、長寿チャレンジハウスでの生活体験を通じて、ロボットとの共生が個々の挑戦や生きがいを創出するような「未来の暮らし」を実現するための拠点として運用することを目指します。

なお、本取り組みは、内閣府ムーンショット型研究開発事業「目標 3」「活力ある社会を創る適応自在AI ロボット群」(プロジェクトマネージャー:平田泰久、課題推進者:加藤健治)の一環として実施されています。

同プロジェクトは、2024年にパリ・パラリンピック公式ファンゾーンでの「スマーター・インクルーシブ・ダンス」実施、第11回ロボット大賞(介護・医療・健康分野)優秀賞の受賞など、国内外で高い評価を受けています。

長寿チャレンジハウスは、これらの成果を「生活の中で活かす」ための次なる挑戦であり、ロボットと人がともに暮らしながら生活を築いていく共創ハウスです。

「長寿チャレンジハウス」内覧会のご案内」

□日 時:2026年2月20日(金) 10:00~15:30

□会 場:「長寿チャレンジハウス」

愛知県大府市～国立長寿医療研究センターから徒歩圏内～

お問い合わせいただけましたら、詳細につきまして別途、ご連絡します

□説明者:加藤 健治 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

ロボット臨床評価研究室長)

細井 昭宏 (サンヨーホームズ株式会社 執行役員 新規事業部長)

□開催時間

①1回目:10時～

②2回目:13時～

③必要に応じ実施します

□プログラム

①コンセプト、趣旨説明

②住宅および間取りの説明

③各種ロボットおよび生活シーンの説明

④質疑

⑤個別対応

お問い合わせ先

サンヨーホームズ株式会社 新規事業部

〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目4番1号 オリックス本町ビル

TEL:06-7670-3412 FAX:06-6578-3458 (担当:細井 昭宏)